華人社会に対する迫害と強制献金

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

粛清（Sook Ching）

占領の最も過酷な影響を受けたのは、シンガポールとマラヤの華人社会でした。華人の多くは、共同体の指導者が組織した募金活動や日貨排斥を通じて、日本との戦争を戦う中国を支援していました。そのため日本軍は、この共同体を敵対的とみなしました。降伏から3日後の1942年2月18日、日本軍は華語で「粛清」（Sook Ching、「清めによる粛清」）として知られる粛清を開始しました。18歳から50歳までの華人男性が検証所に呼び出されました。憲兵隊とその密告者によって抗日分子と認定された者は連れ去られ、銃殺されました。1942年2月20日にはチャンギ・ビーチで民間人66人が、2月23日にはポンゴルで民間人約300人から400人が殺害されました。[1]

犠牲者の数は、今日に至るまで確定していません。日本は後に、死者は約6,000人を超えないと主張しました。リー・クアンユー（Lee Kuan Yew）はその数を約7万人としましたが、これにはマラヤでの犠牲者も含まれて

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

いました。歴史家による事後的な推計では、シンガポール国内だけで約2万5,000人から5万人が死亡したとされています。戦後、日本人将校ヒシカリ・タカフミ（Hishakari Takafumi）中佐が提出した宣誓供述書には、華人5万人を殺害する計画であったと記されていました。[2] これらの数字の食い違いは、それ自体が歴史の一部となっています。日本国家が長らく虐殺の調査を拒んできたことを反映しているからです。

華僑協会

殺害が終わると、軍政当局は共同体の経済的な従属化に着手しました。当局は昭南華僑協会（Syonan Overseas Chinese Association）を設立し、同協会は1942年3月2日に吾廬倶楽部（Goh Loo Club）で最初の会合を開きました。高齢の医師であり改革者でもあった林文慶（Lim Boon Keng）が会長に就任しました。[3] 同協会は華人社会の代表機関として位置づけられていました。しかし実際には、日本側の要求を伝達し、その履行の責任を共同体の指導者に負わせる役割を果たしていました。

協会に加わった指導者たちは、強要されてそうしたのでした。その多くは検証の際に友人や親族が連れ去られるのを目の当たりにしており、自ら拘束された者もいました。日本の官吏であった篠崎護（Mamoru Shinozaki）は後に、数千枚の「良民証」を発行して華人やユーラシアンの住民を保護したと主張しましたが、その役割については今も議論が分かれています。[4] 占領下における協力の曖昧さは、戦後の華人社会の政治と、その指導者の何人かの経歴に影響を及ぼすことになりました。

5,000万ドルの「献金」

共同体にとって最も直接的な金銭的影響は、5,000万ドルの「献金」の要求でした。日本の軍政当局は、華僑協会を通じてマラヤの華人にこれを課しました。当初の期限は1942年4月20日でしたが、まず5月20日に、次いで

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

6月25日に延長されました。協会は資産に対する賦課金として徴収を組織しました。方言集団ごとに、互いの資産を査定する役割が割り当てられました。3,000ドルを超える資産を保有する者には8%が課されました。[5]

全額を期限までに集めることはできませんでした。1942年6月23日、林文慶を筆頭とするシンガポールの実業家11人が、横浜正金銀行を受益者とする担保権設定書に署名しました。国家文物局（National Heritage Board）によれば、華人の指導者たちは2,800万ドルを集めたものの、残額は借り入れざるを得ませんでした。この借入金は年利6%で、1年以内に返済しなければなりませんでした。1942年6月25日、林文慶はこの金額を山下将軍に手渡しました。[6]

この取引は、恐喝と金融の形式とを組み合わせたものでした。日本の銀行が、被害者が日本軍に支払うよう強制された資金を、利息付きで、しかも共同体の指導者が署名した担保権と引き換えに被害者に貸し付けたのです。担保権の設定により、指導者たちは自らの目的に何ら資するところのない債務について個人的な責任を負うことになりました。その一人である銀行家の陳延謙（Tan Ean Kiam）はシンガポールに残り、日本側との間で華人社会の事務を処理するために協会に引き込まれていました。彼は献金の手渡しから1年も経たない1943年3月に亡くなりました。[7] 金融センターの歴史にとって、この出来事は、共同体の富がその構成員の安全と引き換えに人質に取られうることを想起させるものです。「献金」とは、直前の数週間に男性たちを殺害された共同体が支払った身代金でした。

財産、貯蓄、そしてより広範な損害

強制献金は、共同体が富を失った経路の一つにすぎませんでした。配給制、徴発、商品の独占的買上げにより、物資は価値の下がり続ける通貨で定められた価格で日本側へと移転されました。食料の輸出入は日本企業に引き継がれ、地元の卸売業者や小売業者は営業を続けるために軍の許可を必要としました。銀行や現金で保有されていた貯蓄は、通貨とともに価

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

値を失いました。日本が設けた郵便貯金銀行に貯蓄していた人々は、インフレによって残高が目減りするのを目にしました。一方、英国の郵便貯金銀行（British Post Office Savings Bank）からは、占領期間中に約300万ドルが引き出されました。[8]

日本側はまた、食料を栽培させるため、華人人口の一部を市外へ移しました。華僑協会は、新昭南模範農場（New Syonan Model Farm）のためにジョホール州エンダウへ華人家族を移住させる事業に協力しました。[9] これらの計画は、当局にとって食料不足を緩和する手段となりました。一方、入植者にとっては、都市での生計を失い、商業上の技能を自給農業と引き換えることを意味しました。

よくある誤解

バナナ紙幣は、当初から単に増刷されてハイパーインフレに陥った通貨として語られることがあります。しかし歴史的な証拠は、より複雑な姿を示しています。最初の1年間、この紙幣は英国通貨と並んで額面どおりに流通しており、月間インフレ率は戦争末期の数週間に至るまで、ハイパーインフレの厳密な基準を下回っていました。日本側が食料、商品、労働の市場を支配していたため、この通貨は取引手段としての機能を保っていました。決して獲得できなかったのは価値保存の機能であり、それは密かに保持され、互いに信頼し合う人々の間で交換された戦前の通貨にとどまっていました。

注

1. Wikipedia, “Japanese occupation of Singapore”（2026年11月最終閲覧）：粛清は降伏の3日後、1942年2月18日に始まった。Wikipedia, “Sook Ching”（2026年11月最終閲覧）：Sook Chingは1942年2月18日から3月4日まで続いた、“anti-Japanese elements”と疑われた者に対する“systematic purge and massacre”であった。Wikipedia, “Japanese

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

occupation of Singapore”（2026年11月最終閲覧）：犠牲者は主に18歳から50歳の男性であった。Wikipedia, “Sook Ching”（2026年11月最終閲覧）：華人男性の検証と憲兵隊の役割について。Wikipedia, “Japanese occupation of Singapore”（2026年11月最終閲覧）：1942年2月20日にチャンギ・ビーチで民間人66人が殺害され、1942年2月23日にポンゴルで民間人約300人から400人が殺害された。 ↩

2. Wikipedia, “Sook Ching”（2026年11月最終閲覧）：日本は“no more than 6,000 deaths”と主張した。リー・クアンユーは、検証可能な数字によれば“about 70,000”にのぼるとし、これにはマラヤでの数字も含まれていた。事後的な分析では、犠牲者数は“at about 25,000 to 50,000 in Singapore itself”とされる。Timothy Pwee, “A War Crimes Trial Snapshot”, *BiblioAsia*, vol. 11, issue 4, January–March 2016：ヒシカリ・タカフミ中佐の宣誓供述書は“claimed that the plan was to kill 50,000 Chinese”。 ↩

3. Lee Meiyu and Seow Peck Ngiam, “The Singapore Chinese Community During the Japanese Occupation”, *BiblioAsia*, vol. 18, issue 2, July–September 2022：昭南島華僑協会は1942年3月に日本の軍政当局の下で設立された。最初の会合は1942年3月2日に吾廬倶楽部で開かれた。「Lim Boon Keng was its president」。 ↩

4. Wikipedia, “Mamoru Shinozaki”（2026年11月最終閲覧）：華僑協会は1942年3月2日に日本の後援する団体として設立された。篠崎の下の厚生事務所は“thousands of Good Citizen’s Ticket[s]”を発行した。粛清と華僑協会における彼の役割については争いがある。 ↩

5. Lee Meiyu and Seow Peck Ngiam, “The Singapore Chinese Community During the Japanese Occupation”, *BiblioAsia*, July–September 2022：同協会は、日本当局がマラヤの華人社会から“donation”として5,000万ドルを搾り取るための手段となった。当初の期限である1942年4月20日は5月20日に、次いで6月25日に延長された。Lee Meiyu and Seow Peck Ngiam, *BiblioAsia*, July–September 2022：方言集団ごとに互いの資産を審査する役割が割り当てられた。“Those who owned assets worth more

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

than $3,000 were taxed 8 percent”。一方、資産が3,000ドル未満の者は免除された。 ↩

6. Google Arts & Culture / National Heritage Board, Singapore, “The Overseas Chinese Association, Syonan. To Yokohama Specie Bank, Limited. Document of Lien”, 23 June 1942（Personal Collection of Alex Tan Tiong Hee, Trustee of Settlement of Dr Lim Boon Keng）（2026年11月最終閲覧）：林文慶らの指導者は5,000万ドルを集めるよう命じられた。2,800万ドルが集められ、実業家たちは残額の借入れを強いられた。11人の実業家が署名し、林文慶が最初に署名した。Wikipedia, “Lim Boon Keng”（2026年11月最終閲覧）：“donation”は5,000万海峡ドルで、そのうち“only 28 million dollars were raised with much difficulty”、残額は横浜正金銀行を通じて貸し付けられた。Lee Meiyu and Seow Peck Ngiam, *BiblioAsia*, July–September 2022：不足額は横浜正金銀行からの“at an interest rate of 6 percent per annum”の借入れで賄われ、1年以内に返済することとされた。Bukit Brown Heritage, “27 Tan Ean Kiam 陳延謙”（著者Lee Chyen Yee、2026年11月最終閲覧）：同協会は横浜正金銀行からの借入れによって5,000万ドルを調達し、林文慶が1942年6月25日に山下将軍にこれを手渡した。 ↩

7. Bukit Brown Heritage, “27 Tan Ean Kiam 陳延謙”（2026年11月最終閲覧）：陳延謙は協会に取り込まれた。“As a banker, he was involved in raising the $50 million ransom demanded by the Japanese”。1943年3月30日に死去。 ↩

8. Lee Meiyu and Seow Peck Ngiam, *BiblioAsia*, July–September 2022：日本企業が食料の輸出入事業をすべて引き継ぎ、地元の卸売業者と小売業者は営業を続けるために日本軍の許可を必要とした。Kratoska, “Banana Money”, 1992, note 24（参考注はCambridge Coreで参照、2026年11月閲覧）：大日本郵便貯金銀行（Dai Nippon Post Office Savings Bank）の口座残高は占領終了時に平均81ドルであった。占領期間中に英国の郵便貯金銀行から約300万ドルが引き出された。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

9. Lee Meiyu and Seow Peck Ngiam, *BiblioAsia*, July–September 2022：同協会は、新昭南模範農場のためにジョホール州エンダウへの華人の移住に協力し、土地の開墾と食料の栽培を奨励した。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.